

にほんごの トビラ



専門家が語る
海外に住む子どものための日本語教育

22 時間目 ぜひ継続したい日本の学校の体験入学

3月になり、夏休みの計画をしている方もいるのではないのでしょうか。

日本の学校への体験入学は、経済的な負担も軽く、日本語での学習や同年代の子どもとの交流ができる良い機会です。ただし、学年が上がるにつれ、受け入れ校の態勢が消極的になったり、子どもが嫌がるようになっていたりする傾向があります。

学校の夏休み前は、夏休みの過ごし方の指導、個人懇談会などが行なわれますし、中学校では部

活動の都道府県大会の地区予選などを控え、とても忙しい時期です。公立学校の教員にとっては、海外の子どもとの交流は、自校にとっても貴重な体験だとわかってはいても、そのような時期に余分な仕事が増えるのは大変なのです。このため、体験入学生のための特別なプログラムや教員からの授業内容のフォローなどは期待できません。また、部活動にも参加できないこともあります。したがって、海外の子どもにとってはあまり楽しみがなく、登校したくない気持ちにもなるのです。

集団生活を通して学ぶチームワーク

しかし、体験入学はできる限り継続するとよいでしょう。特に補習授業校に通学していない子どもは、毎年体験入学することをお勧めします。

同年代の日本の子どもとの集団生活を通して、チームワークを発揮できる人材を育成するという点において、体験入学はとても重要だからです。日本の社会や日本の企業はチームワークを大切にしてい

ます。チームの一員として活躍するためには、日本語でのコミュニケーションだけでなく、仲間を理解し、仲間を尊重することが必要です。このためには、日本の同年代の人たちの考え方や価値観、言動などを知らねばなりません。これらは、大人として成長する前段階において、同年代の子どもと集団生活をすれば、自然に吸収できます。

より多くの子どもが体験入学の継続によって、未来のグローバル社会をけん引する人材に育ててほしいと願っています。



▲体験入学スタート！全校生徒の前での自己紹介

丹羽 筆人

Niwa Fudehito

米日教育交流協議会代表。在外子女の日本語教育と帰国生大学・高校・中学入試のサポートを行なう。他にデトロイト補習授業校講師。

◆米日教育交流協議会
電話：1-248-346-3818
サイト：www.ujec.org

